

各スポーツ新聞における大学の扱われ方の違い ー大学ラグビーの記事に着目してー

小柳 真弓

現在、スポーツ新聞ではプロ野球を中心に様々なスポーツが報道されている。大学スポーツも多く報道されているが、大学ラグビーの記事において有名校の記事ばかりに偏っており、その取り上げ方に不公平感を抱いた。ビジネスとして、商業性が高くなるのはわかるが、大学スポーツは商業的利害関係のあるプロではなくアマチュアスポーツなので、一読者かつ自分たちの活躍を報道される側としては公平な報道を期待したい。

そこで、①大学ラグビーの報道が本当に有名校に偏っているのか検証する、②その偏り具合から各スポーツ新聞の公平性を比較する、③取材現場の実状や報道方針を探る、この3点を本研究の目的とする。

研究対象は、一般紙5大紙の系列のスポーツ新聞である、日刊スポーツ（略称、日刊）・スポーツ報知（報知）・スポーツニッポン（スポニチ）・サンケイスポーツ（サンスポ）の4紙とする。対象記事は、関東の2大リーグの2008年の全試合結果である。

仮説は次のように設定する。①大学ラグビーの報道は有名校に偏っている、②距離、知名度ともに条件の悪い大学にまで取材に来るサンスポが最も公平で、あまり取材現場に現れない報知が最も不公平、日刊とスポニチはその中間の報道をしている。

調査方法は、対象記事をスペース分析し、その結果をもとに、各大学が人気（観客動員数）や実力（勝率）に応じた報道をされているか調べる。さらに、人気に応じた公平度（公平度は分散の小ささとし、分散が小さいほど公平度は高い）と実力に応じた公平度により、各新聞の公平度を比較する。そして、現在の大学ラグビー担当記者にインタビューを行う。

分析の結果、4社とも有名校に偏って報道していることが示された。人気に応じた公平度、実力に応じた公平度、どちらも高い順に、報知、日刊、スポニチ、サンスポという、仮説とはむしろ逆の結果になった。これは、新聞全体に占める大学ラグビー記事の比率（報知0.26%、日刊0.37%、スポニチ0.41%、サンスポ1.15%）が小さい順でもあった。

内容分析の結果が仮説と逆になったのは、大学ラグビー記事の総面積が少ない新聞ほど、各大学を均等に少なく報道しているためであると推測される。そしてこのことから、大学ラグビーを報道している記事の全体面積が大きければ、片方の大学の面積が不公平に小さくても、報道記事の全体面積が小さい中で“扱われていない”よりは、“扱われているという事実”によって公平に感じられるということも推察された。また、担当記者へのインタビューから、各新聞の力を入れている報道分野が違いため担当記者の人数や与えられる面積が異なっているといった現状を知ることができた。そしてその与えられた条件の中で、各記者が自分のポリシーに添った報道をしようと努力している実状を窺うことができた。

本研究において、公平性はその種目を扱っている記事面積で判断されがちであるという、新たな知見への可能性が開かれた。
(指導教員 後藤嘉宏)